

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	あすなろクラブ		
○保護者評価実施期間	令和6年12月9日		～ 令和7年1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	令和6年12月9日		～ 令和7年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月14日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	途切れない支援として、児童発達支援卒園児の受入れができる。	困り感の解消やその場を切り取った支援ばかりに捉われないよう、一手二手先を見た支援についても必ず考え、話し合うことを心掛けている。	職員が想像力、想定力を磨くための研修が必要。
2	児童発達支援から積重ねてきた関係性が保ちやすい環境下にある。	児童発達支援からの詳細な情報やアドバイスをもとに、支援の組み立てを行うことができる。	学校を中心とした生活の中での成長に合わせ、活動の形も変化させていかなくてはならない。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関りとしても支援としても、固定化しがち。	職員数が極端に少ない。余裕がない。	職員が少ないからこそ、できる集団の形(子どもたちの成長を後押しする形)を実現する。
2	全体で(タイムリーに)情報共有がなされていないことが多い。	時間のなさ(忙しさ)を言い訳に、情報共有のタイミングを逃している。	手を掛けずに目を配る支援の在り方を確立していく必要がある。
3			